

# 広島大学文学部蔵『聲明集』解説<sup>並びに</sup>影印

花野憲道

## 一、書誌

南北朝時代写、綴葉装柀型本、楮紙、後補表紙、無界、一頁四行、朱点(声点、合点)、墨点(仮名、節博士、補助記号)、別筆墨点(仮名、補助記号)、縦十七・六糎、横十七・二糎、全八十二丁、内題・尾題ナシ、(表紙見返)「岢文久第三／九月下旬／九華寛／南光院二代／廣尊求之」

(卷末識語)「文久第三歳／亥九月下旬／九華寛／廣尊房／求之」

## 二、内容略説

本書は真言宗にて嚴修される法要に於て用いられる職衆所用の「聲明集」であり、収載曲目から考えてほぼ全法要に通用する声明集<sup>(1)</sup>である。附記されている博士(声明譜)は南山進流<sup>(2)</sup>の五音博士であり、現在伝承使用されている「南山聲明類聚」の博士並びに収載曲目・曲順共に大部分が一致している。このことは現在伝承されている南山進流の博士記譜法と声明集としての体裁が、本書成立の十四世紀頃には完成されていたことになる<sup>(3)</sup>。

本書の特徴として次の四点が挙げられよう。

① 63丁オモテ以降数字丁に互り他の丁に比して手垢がついて汚れが激しく、よく使用されていたことを物語っている。この部分は「四智梵語」に代表される「讚」に相当するが、「讚」は声明伝授で現在でも極初期に教えられる曲であり、各法要には必ずといっていいほど用いられる（本尊讚嘆の為に）ポピュラーな曲である。

② 「四智梵語」の中で「羅」「都」「怛」に附されている別筆博士は「ユリ」の唱え方を詳細に記したものであり、本書の使用者が伝授で伝えられた内容を忠実に記し留めたものである。又、次の「大日讚」との行間に記されている漢数字は「三段の鉢」の打様を表記したものであり、この当時進流声明に於ても「讚の鉢」は三段三様に打ち分けられていたことを示している。

③ 「理趣経」各段は所謂「頭」の部分に博士が附されていて、「長音」の譜ではなく「中曲」の博士である。  
④ 漢字に附されている声点と博士の基点とは必ずしも一致していない。

最後に収載曲目を示せば以下のようなものである。

三礼、唄（如来唄・云何唄・出家唄）、散華（中段のみ大日・釋迦・薬師・阿弥陀）、梵音、三條錫杖、九條錫杖、对揚（別に曼荼羅供・最勝講・大般若・法華経・孟羅盆経・仁王経・孔雀経讀経）、唱礼（金剛界・胎藏界）、理趣経（中曲）、礼懺文、四智梵語、大日讚、不動讚、四智漢語、心略漢語、佛讚、文殊讚、吉慶漢語（七段）、吉慶梵語（三段）、阿弥陀讚、四波羅蜜、金剛薩埵、金剛寶、金剛法、金剛業、佛名、教化、全四十八曲。

影印注

5 ウー「教」の博士上に朱声点を重ねる。

9 ウー「生」仮名「ウ」に朱声点を重ねる。

11 オー「小音」は博士と同筆。

- 13 オー「一切」の合符は博士と同筆。  
18 ウー「三」の右傍「立」は博士と同筆。  
19 オー「教」の右傍「居」は博士と同筆。  
25 ウー「仁王経」の博士と仮名とは別筆。  
38 オー字音仮名と「已下」は博士と同筆。  
41 ウー「頂」の虫損は仮名「イ」。  
41 ウー「造」の虫損は仮名「ウ」。  
42 ウー「極」の虫損は仮名「ツ」。  
63 オー字音仮名は別筆。  
63 ウー「嚙」の博士補助記号は「マロク」。  
67 オー「真」の博士補助記号は「ハ」。  
72 オー「拽怛菅譏覧」の博士は別筆。  
74 オー「娜」の右傍「助」は別筆。  
74 ウー「怛」「那」「蘇」の右肩に角筆合点あり。  
75 オー「弥」「迦」「摩」の右肩に角筆合点あり。  
75 ウー「稜」「多」「答」「写」の右肩に角筆合点あり。  
76 ウー「曰」の右傍仮名「シ」は別筆。  
77 オー「麼」上声に朱声点あり。  
78 オー「東方ノ讚」は別筆。

79 オー「南方ノ讚」は別筆。

79 ウー「西方ノ讚」は別筆。

80 ウー「北方ノ讚」は別筆。

82 ウー「後夜偈」以下一丁切除した形跡あり。

注

(1) 真言宗の法要には大きく分けて顕教立と密教立の二種類の法要がある。

(2) 声明の流派に関しては以下の諸本に詳述されている。

岩原諦信『南山聲明の研究』(山城屋文政堂、昭和七年六月)、金田一春彦「真言声明」・中川善教「南山進流声明概説」(『仏教音楽』、音楽之友社、昭和四十七年八月)。

(3) 拙著「声明資料とその一研究」(『築島博士古稀記念国語学論集』、汲古書院、平成七年十月)。

(4) 沼本克明「石山寺蔵古博士資料について」(『石山寺の研究 深密蔵聖教篇下』法蔵館、平成四年二月)。

(5) 拙稿「仁和寺蔵『般若理趣経』博士加原本」(『訓点語と訓点資料』第九十八輯、平成八年九月)。